



【千葉県地域IT化推進協議会】
平成24年度通常総会

「食の価値情報部会」活動報告

平成24年5月29日

(一社)千葉IT経営センター
代表理事 野村 真実



千葉県地域IT化推進協議会「食の価値情報部会」 活動経緯と平成24年度活動計画

《H22年度》
「食の価値情報部会」
が発足

- 関東経済産業局委託事業「千葉県RIPs事業」を通じて、千葉県地域IT化推進協議会内に「食の価値情報部会」が発足
- 「食」関連業界における情報価値を検討
- あるべき絵姿として「農家の日記帳モデル」を作成

《H23年度》
「農家の日記帳
モデル」実証開発

- 関東経済産業局補助事業「千葉県RIPs事業」を通じて、「農家の日記帳モデル」の実証開発を実施
- 農業者によるフィールドテストを実施して、好反応を得る
- 県内や他県の農業ITへの取り組み例に接して、ネットワークを形成

例:「アグリノート」(新潟)



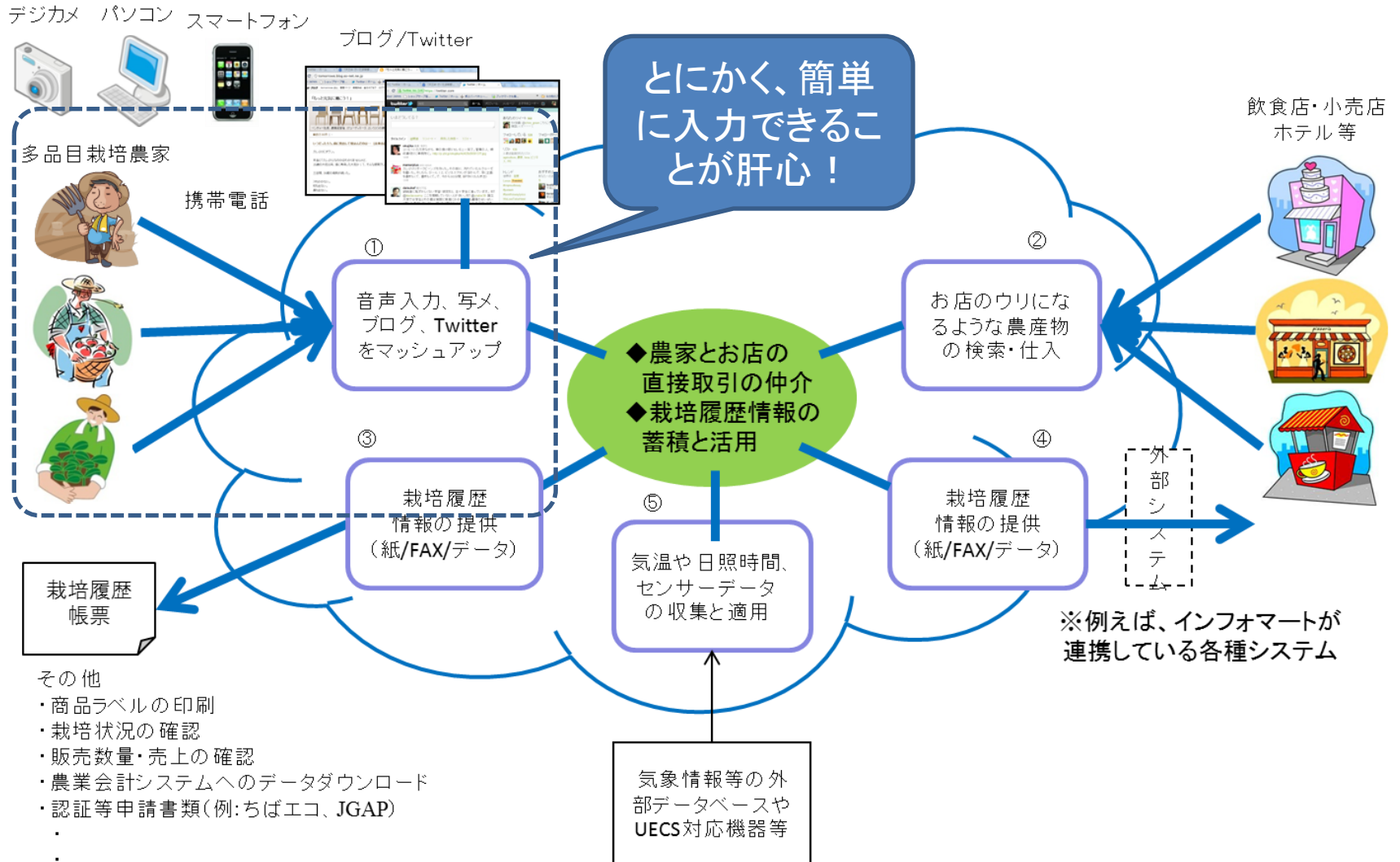
《H24年度》
2つの具体的なテーマ
で勉強会を実施

- 「食の価値情報部会」は、情報の共有の場・気づきの場として継続
- 「地域振興×食関連産業×IT」をテーマに、2回の大きめの勉強会を実施する(上期:農業、下期:食品加工)
- 「農家の日記帳モデル」の一部は商用化を検討(イーエスケイ社)



参考：「農家の日記帳モデル」

「農家の日記帳」機能関連図 Ver3





“観察情報のデータ化”（仮説）

◆「農家の日記帳モデル」実証開発のフィールドテストからの農業者の声

「農薬散布記録や、「重要な作業（受粉等）」の記録は行っているが、日々の作業内容の記録は、おおよその作業時間、労働時間のみ」

「作業終了時、その場で記録できるのがよかった」

「音声入力やタップで記録できるので、いちいち細かく入力せずに済んだ」

「音声入力は手間がかからなくていいと思う。手で書き込むと大変だが、音声入力ならだれにでもできて便利」



現状の課題

記録に手間がかかるので、いくつかの重要な情報だけを記録している
→逆に言えば、その他は機械で計測できるものを除いて記録できていない



“観察情報のデータ化”（仮説）

今までは記録できていなかった“観察から得られる情報”をデータ化することができれば、今までない大きな価値を得ることができるのではないか？



「観察情報のデータ化」 応用イメージ

例)
梨病害防止ナビゲーション
梨の品種別栽培管理研究

各種栽培管理・指導・研究のデータに活用

千葉県農林総合研究センター、各農林振興センター

千葉県内各地の気象データ
(気温、降水量、日照時間)
(MetBroker経由)

普及指導員や生産者が農薬散布の要否や散布時期を判断、指導

黒星病等の予防
減農薬推進

千葉県内各地の梨園での
実際の開花日や防除日情報

「作業履歴音声記録システム(仮称)」にデータを自動収集

例)
開花日
防除日
剪定日
...

自治体の皆様、
ご意見をお願いします。

「作業履歴音声記録システム(仮称)」を対象となる梨農家に配布

